

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 04-006066

(43)Date of publication of application : 10.01.1992

(51)Int.Cl.

B65D 81/32

B65D 30/22

B65D 33/22

(21)Application number : 02-095895

(71)Applicant : NAKAGAWA SHIGEO

(22)Date of filing : 10.04.1990

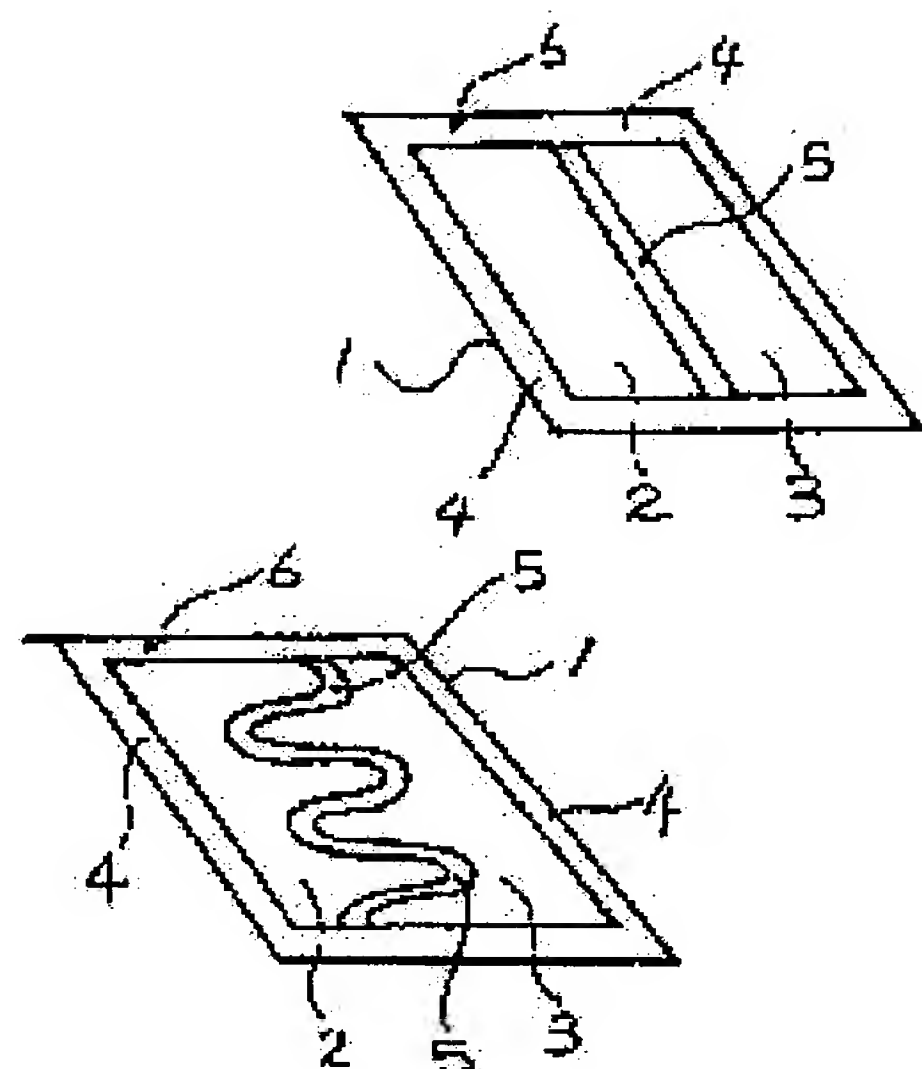
(72)Inventor : NAKAGAWA SHIGEO

(54) TUBE FOR EPOXY ADHESIVE AGENT

(57)Abstract:

PURPOSE: To make handling very easy by separately sealing double fluid hardening adhesive agent in a film bag with a predetermined ratio, rigidly sealing a part to be an outer frame of the bag body and weakly sealing a part with the adhesive separated.

CONSTITUTION: Adhesive agents 2, 3 are separately contained in a film-like bag 1 with a predetermined ratio. The adhesives 2, 3 are hardened by being mixed with each other. A part 4 to be an outer frame of the adhesives 2, 3 is strongly sealed, while a part 5 for separating the adhesives 2, 3 from each other is weakly sealed. When a part 2 or 3 of the bag is strongly pressed, the seal part 5 is broken or peeled to have the adhesives 2, 3 mixed with each other. By further rubbing it, the adhesives 2, 3 are blended uniformly in the bag. Since the adhesives 2, 3 have been separately packed with the predetermined ratio, trouble for measuring the mixture ratio can be saved.



⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

平4-6066

⑬ Int. Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成4年(1992)1月10日

B 65 D 81/32
30/22
33/22D 7191-3E
G 8208-3E
6833-3E

審査請求 未請求 請求項の数 4 (全2頁)

⑮ 発明の名称 エポキシ接着剤用チューブ

⑯ 特 願 平2-95895

⑰ 出 願 平2(1990)4月10日

⑱ 発 明 者 中 川 滋 夫 兵庫県神戸市垂水区海岸通7-8 パールシヤト-501号
 ⑲ 出 願 人 中 川 滋 夫 兵庫県神戸市垂水区海岸通7-8 パールシヤト-501号

明 細 書

1 発明の名称 エポキシ接着剤用チューブ

2 特許請求の範囲

(1) フィルム袋体1中に、二液硬化性の接着剤2と3を、所定の比率で分離封入して、袋体1の外枠となる4の部分は強固にシールされており、接着剤2と3を分離している5の部分は4の部分に比べて弱くシールされていることを特徴とするチューブ。

(2) 接着剤2と3を分離している5の部分が、蛇行した形状であることを特徴とする特許請求の範囲第1項記載のチューブ。

(3) 袋体1の形状が切口6の部分で突出していることを特徴とする、特許請求の範囲第1項記載のチューブ。

(4) 袋体の内面側の少なくとも一方に、開閉可能な接着帯を設けて、この部分で二枚のフィルムが接着して、接着剤を分離する5の部分構成することを特徴とする特許請求の範囲第1項記載のチューブ。

3 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、二液硬化性の接着剤や塗料の容器に関するものである。

(従来の技術)

一般的に、二液を混合して使用するエポキシ系接着剤は、二つのチューブに別けて保管され、使用時に適量を一定の比率でパレット上に練り出して、棒状体でこれらを混合して、硬化時間内に被接着物に塗布するというものであった。

(発明が解決しようとする課題)

本発明のチューブは、従来のものに比べて以下の特徴を有する。

チューブが一つですみ、混練用のパレットや棒が不要である。

混合の比率に気を使わなくてすむ。

準備に手間がかからないので、硬化までの時間を有効に使える。

接着剤が手先等に付着しにくい。

後始末が楽である。

特開平4-6066(2)

混練時に空気や不純物が混入しない。

(問題を解決する為の手段)

第1図にもとずき、本発明の具体的一実施例について説明する。

フィルム状の袋体1に、接着剤2と3を所定の比率で分離して収める。接着剤2と3は混合することにより硬化するものである。

接着剤2と3の外枠となる4の部分は、強固にシールされているが、接着剤2と3を分離している5の部分は、弱くシールされている。

5の部分を弱くシールする為の方法としては、あらかじめフィルムの内側となる面に、開閉自在となる接着剤を帯状に塗布して、この部分を密着させることで二枚のフィルムをシールすることも可能である。

(作用)

本袋体の2又は3の部分を強く押さえると、シール部分5が破れるか剥がれるかして、接着剤2と3が混合される。さらに袋体をもむことにより、接着剤2と3を袋体中でまんべんなく混練する

ことができる。

接着剤2と3は、あらかじめ所定の比率で文包されているので混合比を計量する手間が省ける。

混練は、袋体の外部から直接手で触れて行なうためスピーディーでまんべんなく混合でき、又手を汚す恐れがない。

混練中に外気と接触しない為、空気やゴミなどが接着剤に混入する恐れがない。

混練後の接着剤は、切口6より絞りだして使用することができる。

このような特徴を持つ本接着剤チューブの使用により、接着剤の事前準備が非常に容易となる為、従来の一般的な接着剤と同様に二液硬化性の接着剤を使用することが可能となる。

(実施例)

第1図は、前述の通り袋体中に二液を分離封入した例である。使用者は、接着剤2と3を袋体1中で混合後、接着剤が固形化してしまわない内に切口6をカットして練り出す。

第2図は、接着剤2と3を分離しているシール

部分5の形状を、曲線又は折れ曲り線としたものである。こうすることでシール部分5が破れた後の接着剤2と3の混合をよりスピーディーに行なえる。

第3図と第4図は、切口となる部分6を突出した位置に設けるための袋体の形状を示すものである。

又、例えば接着剤2と3中に、それぞれ赤と青の染料を混ぜておくと、両者が確実に混ざりあっているかどうかを、フィルム越しに確認することが可能になる。これらの染料は、二色が混じって透明となる物であってもよい。

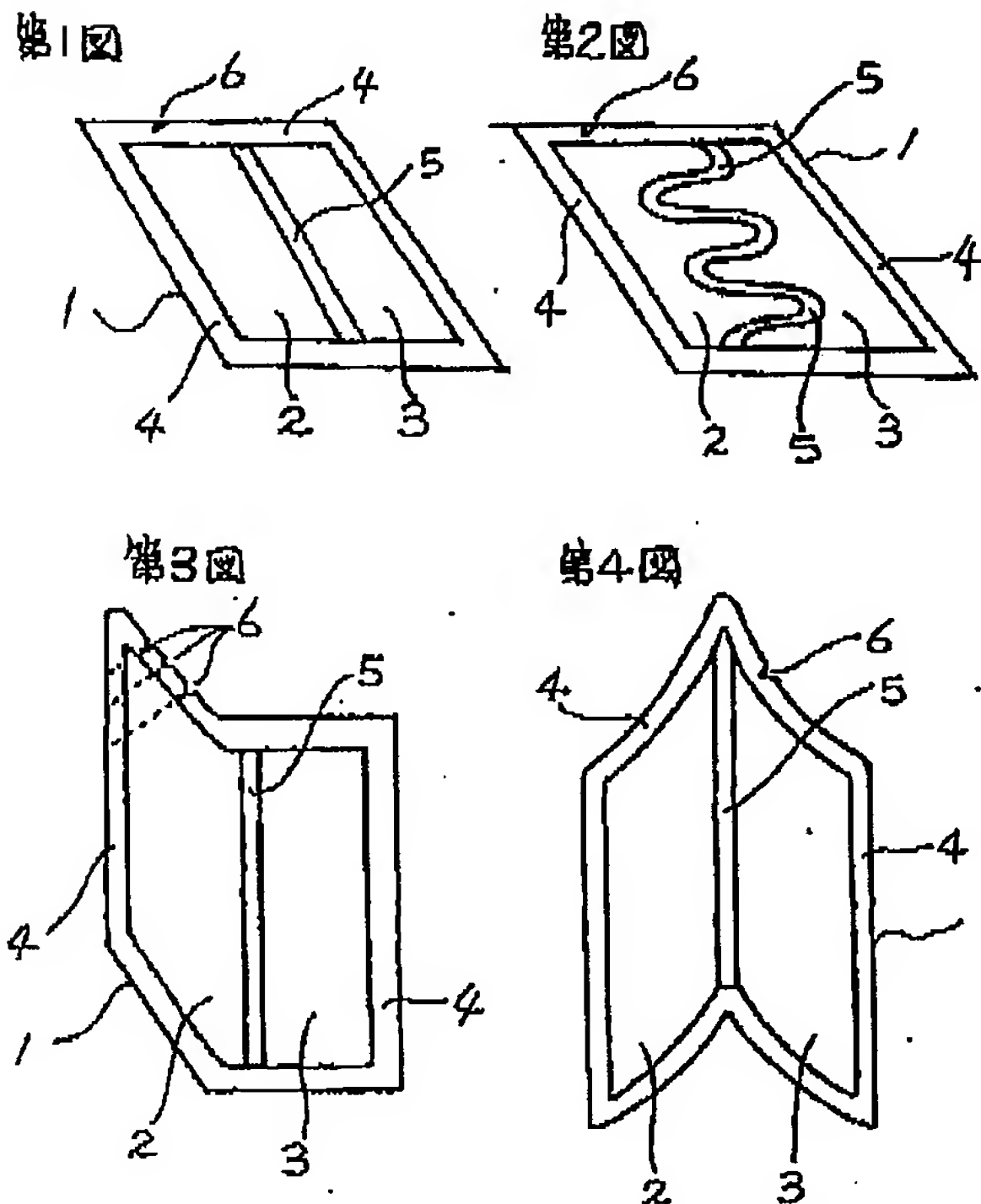
(発明の効果)

以上説明の如く、本発明により二液硬化性接着剤の取扱いが非常に容易なものとなる。

4 図面の簡単な説明

第1図、第2図、第3図、第4図は、本発明の斜視図。 1…袋体、 2…接着剤、 3…接着剤

4…袋体外枠シール部分、 5…接着剤分離シール部分、 6…切口



特許出願人 中川 滋夫